

今後発展する地域活性化の取り組み

桑原 敏彦



Q 中心市街地の新たな地域ブランドとして、今後、大正ロマンをどのように進め、商店街の活性化につなげていくか伺います。

A 中心市街地への歴史的建物の移転・集約、集客イベントは、活性化に有意義と考えています。地域団体や商店街等の事業として連携した事業展開が図られていくことを期待しています。

Q 薄根地区では、地域全体の経済的・社会的な活性化を目的に「薄根地域ふるさと創生推進協議会」を立ち上げました。この取り組みを成功させるには行政との連携は必須で、更に各地域に広げることも重要です。地域活性化への行政連携及びその推進について伺います。

A 移住者・移住希望者と行政をつなぐ地域の受け入れ団体の必要性、重要性も強く認識しています。今後は、地域の活性化はもとより、移住や観光、関係人口増につながる支援を行っていきたいと考えています。

Q 地域協議会等の取り組みを発展させるには、将来的に交付金に頼らず事業を継続していくことが最も重要です。地域協議会等と自治体連携による地域ビジネスの創出について伺います。

A 地域協議会等が自立した運営を行うには、収益を確保できる魅力ある商品や企画が必要で、多くの方々に知ってもらうことが一つの要素と考えています。「棚田のオーナー制度」や「ホタルの里」のPRも行っています。が、今後、地域が自立し「稼げるまちづくり」につながるような支援や連携等について研究していきたいと考えています。

※その他の質問：歩行者利便増進道路制度の推進、シティプロモーションについてなど



石墨町の棚田